動員令として工場内を現政府首相田中大将が出した後の代物
で資本家の自由な生産テンポ内部にしないはず。主張者である。未だ乾
工場内にあってすべてが想像すれば難くない。
ただ工場内にあってのす制はとも角とする。彼らは乾が工場外の内部に至
して従業員の自由を強迫することあらんか、それは尚早算に乾工場のみ。
内部ではなくなる。従業員の事に室して従業員の自由を束縛し制
奪せんとすることそれこれ既に工場の規範ではなければならない。然し彼ら
乾こそは実に之を敢てしたのである。即ち彼らはメーデーに参加者と全部
首にしそを脅迫してこの脅迫がなければされるやならばメーデーに参加の者を
退への労働者諸君は従業員の後僕に工場主の前に呼びつけ職
首といわず直ちに労働組合脱退を強硬にしたのである。労働者の
血と汗その競争によって今保されたるメーデーと労働者の血と
汗との辛苦によって築き上げられ労働組合とこの二つを共に蹂躙したのである。

ある。これ無産階級の自由権に対する挑戦でなくて何んであらう。
而も乾鉄線の従業員諸君がこの挑戦に対し断乎抗争の途に出た
時に西巣鴨署の如きの態度は果して何であったか。曰くピケの禁止曰く
不当検束更に無産者の部会は西巣鴨署の此の実状を看過する
のみではなく却って之が実態を増つてゐる。乾鉄線工場のみではなかれに
於ても日本の争議を見よ全労働者の一致協力は挑んとこの両所
に集合させてゐるが如くではないか。
我々両党は之に一切の専制的圧迫に対し一切の被圧迫の為めに自由を
擁護し擁護する任務を有するものゝ当然の責任として乾の争議者に
かつてあの工場主及官憲の暴圧者結社権罷業権の蹂躙に
対して断乎抗議せんとするものである。
顧みしかるに乾争議者は乾のメーデー参加禁止に対して我等の
メーデー参加を排したるは全無産階級の恥辱である。かゝる障壁に